

◆特集 命を軽んずる医療制度の改悪

身体・金銭的にも追いつめられる日々

徳島県協

阿讃友の会

山本 康彦



政策が生活に大きく影響

トランプ大統領のワガママ政策で全世界が混乱しています。日本もまた国民生活は二の次の政策続きで、円安は続き、物価は上昇し続け、企業も国民も大打撃を受けています。

そんななか、私も昨年の秋から今年の春までは、多少なりとも野菜を作っていましたので食生活には多少の助けになりましたが、今の高温期には胡瓜とカボチャしか作れていません。ですから毎日食べるために買い出しにスーパーまで足を運んでいます。

今年に入ってから食事の出費が毎月赤字になって来ました。1カ月の食事を7〜8万円でやってみようと計画しましたが、2万円ほど追加が必要になってきました。これも家計簿をつけて具体的にになりました。毎月貯金が確実に減ってきています。物価調整で年金が上が

ましたが到底追いつきません。現役世代で子育てをしている環境であればもつと苦しいことと想像できます。

癌の私と認知症の妻

私は81歳で骨髄腫という血液の癌が判って3年になります。一方、妻は昨年11月に75歳でアルツハイマー型認知症と徳島大学病院で診断されました。

それから月1回、7カ月間の通院です。私が抗癌剤3本の点滴をした翌日に、妻の認知症を遅らせる点滴のため往復3時間半をかけて病院へ。さらに1週間後にMRI撮影のために送迎をしたこともありました。今思えば良くやれたと思います。ただ精神力だけで持ちこたえませんでした。多少認知症を遅らせられましたが、今ではさらに進んできています。私も抗がん剤の点滴は5月で止めてもらいました。月を重ねるごとに体がしんどくて、食事



学習会や機関会議で近況報告し、
議論しあうことが救いに

量も減り一時体重は45 kgまで痩せました。転移の不安を抱えながらですが体重も少し戻りわずかながら元気が出てきました。これからは寿命のある限り抗癌剤の点滴と停止の繰り返しになる事と思います。

8月から医療費の自己負担の上限額を定める高額療養費制度が見直されました。高市政権のバラマキ政策の穴埋めに、生活でも大変困っている高額医療費を払っている患者にまで値上げを強いる。血も涙もない高額医療費を払っている患者の見殺し政策です。まさに小泉政権での聖域なき構造改革路線の継続です。私も妻も医療費・介護費がかさんでいる状況を考えると、先行き不透明と不安ばかりが募ります。それだけでなく庶民の生活を削りに削ったお金を湯水のごとく海外にバラまき続ける。もちろん外交政策は必要ですが、あまりに国民を虐げ過ぎだと思えます。これが現在の政権与党のやり方で、昔から何も変わっていません。

仲間是有難い

私も毎日妻からの「物を盗られた」「あれが無くなっている」への応対や、炊事洗濯、買い物など雑用に追われ、自分の用事が何にも出来なくなっていました。そこで、まなぶ四役会議の中で現状を報告し討論をしました。市役所の仲間がおり、対応について詳しいアドバイスを受け、町の福祉課で相談をし、昨年の10月から妻はグループホームに入ってもらいました。仲間は有難いと本当に実感しました。幾分か身体が楽になって来ました。

しかし、今年に入ってから、7時過ぎに先ず携帯が鳴り「迎えに来て」「こんな所で居れん」と19時過ぎまで同じ内容で電話がかかってくる。数えると80回ほどです。現在は40回強です。特に酷いのは黄昏時になると1分おきに10数回掛かります。精神科で診察をして相談をしましたが、黄昏症候群といい、黄昏時期になると寂しくなると誰かに頼る行動をするとの事でした。グループホームから5回に1回は出て下さい、本人も落ち着きますからとの事でしたが毎日は堪えます。私の頭が痛くなるばかりです。まなぶ四役会議で毎月の報告をして意見を聞く事が一番の救いになっています。

(やまもと やすひこ)